

公益社団法人日本心理学会研究集会等助成金成果報告書

代表者氏名 (ふりがな)	星野 悦子 (ほしのえつこ)	所属	上野学園大学 音楽学部
研究集会等名称	音楽心理学研究会		
成果概要	<p>1) 参加人数 (会員・非会員及び認定心理士の人数を記載してください)</p> <p>会員 17名 (うち認定心理士 1名) 非会員 6名 (うち認定心理士 名)</p> <p>2) 集会等の目的・成果等</p> <p>1、 本研究会では、例会を1か月～2か月に一度の割合でおこなった。本年度は以下の通り、実施した。</p> <p>① 2011年5月21日 第37回例会 ② 2011年7月17日 第38回例会 ③ 2011年9月24日 第39回例会 ④ 2011年11月6日 第40回例会 ⑤ 2011年12月17日 第41回例会 ⑥ 2012年2月12日 第42回例会 ⑦ 2012年3月10日 第43回例会</p> <p>例会の内容は、主に以下の英語原典2冊を購読して内容を議論することである：</p> <p>1) "Cognitive Neuroscience of Music", 2) "Musical Communication".</p> <p>2、 集会等の目的・成果</p> <p>日本心理学会第75回大会 (於：日本大学) においてワークショップを研究集会と位置付けて、平成23年(2011年)9月16日に実施した。内容は以下のとおりである。 テーマ：「音楽心理学研究の現在と未来 (3) ～ライフサイクル・音楽・自伝的記憶～」 内容：趣旨説明1件 (企画代表者：星野)、話題提供5件、指定討論者1名 (大浦容子)、司会者2名 (生駒、羽藤)、フロアの出席者42名。 話題提供のタイトルと提供者名を記載する。「乳児にとっての音楽の意味」(梶川祥世)、「音楽と自伝的記憶—「あ、この音楽は…」過去の出来事はどのように想起されるのか?—」(雨宮有里)、「大学で音楽を専攻する意味」(佐藤典子)、「ヒット曲は景気を語る(唄う)か?」(保原伸弘)、「高齢期・終末期に、音楽で人は何を思い、何を感じるか」(柴田(小林)麻美)。これらの予稿集を兼ねた「音楽心理学研究会論文集第4巻」をフロア出席者全員へ配布した。乳児期から高齢期までのライフサイクルにおける音楽の機能と役割に着目して関連研究を紹介した。</p> <p>3、 将来計画</p> <p>次年度には、日本心理学会第76回大会でのワークショップとして研究集会を企画している。</p>		